

とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	東京都豊島区长崎 1-19-14
園名	アスク長崎一丁目保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

国旗

<テーマの設定理由>

保育園の給食でいろいろな地域の料理が出た際に、世界の国に興味を示す姿が見られたため。国ごとの特徴や違いを知り、多様性に触れ視野を広げるため。

2. 活動スケジュール

11月から3月まで行い、月に1回ネイティブの講師を招致し他国の文化に直接触れる機会を創出することで深く探究活動ができるようにした。その時点での子どもたちの興味関心をもとに問いかけや内容を考え、子どもたちの反応や言葉によって次回の内容を柔軟に変えていけるようにした。

11月：国旗に触れる。日本とアメリカそれぞれのスポーツや食べ物を紹介し、違いを感じる。

12月：新しい国旗を紹介する。国旗クイズを通してどんな色や形が使われているか考える。

1月：オリジナル国旗を作成する。今まで見た国旗の特徴を生かせるように、国旗の復習も合わせて行う。

2月：国旗の発表会をする。もう一度やりたいという意欲もあり、再度オリジナル国旗を作成する。

3月：国旗の発表会を再度行う。国旗の振り返りも行い、種類の多さを再認識する。

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

- ・絵カード（国旗・食べ物など）…「どっちが好き？」などの問いかけの際に、いろいろなものを視覚的に分かりやすくする、国旗を見る。
- ・シール…子どもたちの意欲を高める、達成感をさらに感じられるようにする。
- ・国旗塗り絵…関心を引き出す、発表に用いる。
- ・国旗図鑑、国旗トランプ…塗り絵の見本として使う。
- ・旗の枠のイラスト、クレヨン、色鉛筆…国旗づくり、発表に用いる。
- ・地図パズル…国の場所や国旗などを知る。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

4. 探究活動の実践

【3歳児実施分】

問いを考える：

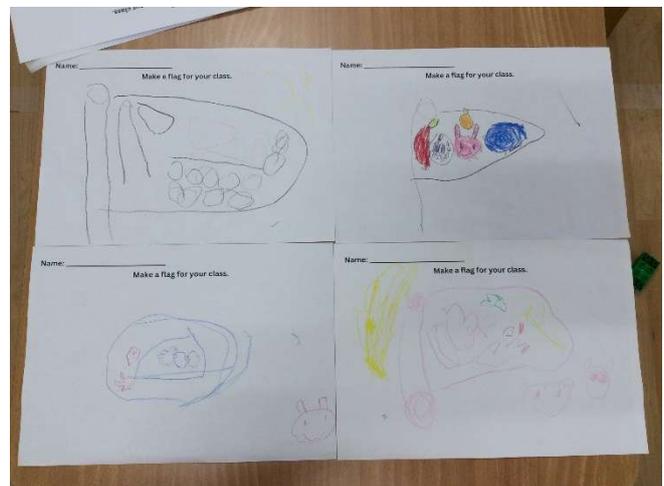
世界のいろいろな国旗に触れて、いろいろな色や絵が描かれていることを知った。国旗のイラストに興味を持っていたため、紙とクーピーを使って塗り絵やお絵描きが出来るようにした。「また旗描きたい」という子どもの気持ちから、その後もオリジナル国旗の作成を行った。

探究活動の様子：

最初の旗づくりの取り組みでは、自分の好きな色や物を自由に描いた。「自由に描いてみよう」と声をかけたが、今までに見てきた国旗のように何色かで塗り分ける子も多く見られた。何色で描いたのか聞くと英語で答えることが出来る子もいた。他児との交流も図るため、次の旗づくりではグループに分かれて、同じグループ内でインタビューをしい、相手の好きなものを旗に描いていくことにした。インタビューを恥ずかしがりながらも楽しそうに会話をしながら旗づくりに取り組んでいた。活動を進める中で「まだ描きたい」と他のグループにもインタビューをしに行く姿も見られた。

ふりかえり（保育士の気づき）：

多くの国旗に触れる中で、国名だけでなく色や物も英語で伝えられるようになってきていると感じた。自分の旗を作りながら、何を描いたのか、どうして描いたのかとやり取りを通して、子どもたちなりのこだわりも感じられた。インタビューを楽しみながら活動していき、子どもから「またやりたい」と意欲的な発言も聞くことが出来た。興味や発達に合わせた内容を行う大切さを感じた。



【4歳児実施分】

問いを考える：

国旗を通して、国ごとに特徴や違いがあることを知った。元々保育園の給食でいろいろな地域の料理が出た際に、世界の国に興味を示す姿があったため、食材がどの国から来ているのか紹介することにした。

探究活動の様子：

クッキングのタイミングで「今日の材料はたくさんの国から来ている」ということを伝えた。小麦粉はアメリカ、ヨーグルトはブルガリアやギリシャ、油はマレーシアなど、身近なものが海外から運ばれてきていることを知って驚いていた。アメリカは活動中に名前も国旗もよく出てきていたので「アメリカ知ってるよ」の声も上がっていた。料理が完成した後に再度振り返りを行い、「これはどこから来ているか覚えているかな？」と聞くと、「アメリカ!」「スイス?」など自分なりに考えながら答えていた。

ふりかえり（保育士の気づき）：

子どもたちの当初の興味に繋げて探究活動を行うことが出来た。具体的に国旗を見せながら「小麦粉はアメリカ」など伝えたことで、国のイメージもしやすかったのではないかと思う。国旗に触れる前は国名を聞いたり国旗を見たりしても不思議そうな様子だったが、少しずつ親しんできて、覚えているものも増えてきたように感じる。身の回りにたくさんの国が関わっていることに気付くことができるように、今後も声掛けをするようにしたい。



【5歳児実施分】

問いを考える：

国旗作りを通して、色や好きなものを英語でどのように話すのかを知った。また、国旗クイズに正解しようと意欲的に取り組んでいる姿があり、「またやる！」との発言もあったので、クラス内で国旗以外にも花や動物などいろいろなものを含めてクイズをすることになった。

探究活動の様子：

まずは自分の好きなものを英語で紹介した。元々英語に親しんでいたこともあり、「I like ○○」と全員スムーズに話していた。その後、好きなもの紹介で聞いたことを踏まえて保育者が「この色の○○は何でしょう？」とクイズをした。クイズでは、色の名前はよく理解しており、「あれだよ、あれなんだっけ？」と答えはイメージできているものの、物の名前を英語で言うことに苦戦していた。友だちや保育者のヒントがあると「そうか！」と答えることが出来ていた。

ふりかえり（保育士の気づき）：

子どもたちからクイズがしたいという発言があったこともあり、全員が意欲的に取り組んでいた。英語の語彙数やクイズに答える速さには個人差があったが、子ども同士で優しく教えあう姿が自然と見られて良かった。国旗という視点から英語に親しむことが出来たと思う。



とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	東京都豊島区长崎 1-19-14
園名	アスク長崎一丁目保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

音の鳴る仕組み

<テーマの設定理由>

身近な歌や音楽に対して日頃から興味を持っている様子が見られ、子どもたちの興味を引きだせるのではないかと考えられるため。

2. 活動スケジュール

11月から3月まで行い、月に1回音楽の講師を招致し楽器の演奏や歌声など本物に触れる機会を創出した。また、その時点での子どもたちの興味関心をもとに、保育士と音楽講師と共に問いかけや内容を考え、子どもたちの反応や言葉によって次回の内容を柔軟に変えていけるようにする

11月：オノマトペとは何かを考える。オノマトペに関する絵本の読み聞かせを行って、子どもがオノマトペを身近に感じられるようにする。

12月：歌詞のオノマトペに合わせた音探しをする。身の回りの道具や玩具を使い、工夫して音を作る。

1月：音の鳴る仕組みを考える。自分の体や楽器に触れることで、震えを体験出来るようにする。

2月：音の鳴る仕組みによる楽器の種類分けを知る。馴染みのある楽器の種類から導入して、親しみを感じられるようにする。

3月：楽器のほかの種類も知る。全4種類の分類について知り、種類ごとに仲間分けが出来るようになる。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

- ・絵本（ガチャガチャ どんどん）、スピーカー…絵本や音楽を通してオノマトペに親しみやすくする。
- ・ビンゴカード…散歩に持っていき、どんな音があるか意識しやすくする。
- ・絵カード…楽器やオノマトペをイメージしやすくする、ゲームで用いる
- ・ペットボトル、割りばし、新聞紙…カエルの鳴き声やくしゃみを表現する
- ・玩具…音探して用いる
- ・折り紙の人形…振動を可視化する
- ・楽器（フレームドラム・トライアングル・鈴・カスタネット・ウッドブロック・タンバリン・アゴゴウッド・スチールドラム・太鼓・メロディホーンなど）…音の振動を感じる
- ・楽器シール…仲間分けで用いる
- ・キーボード…音階を聞いたり、合奏の際の伴奏に使用したりした。

4. 探究活動の実践

【3歳児実施分】

問いを考える：

楽器は震えによって音が出る事や、震える場所によって種類が違う事を知った。素材を見せながら自分達でも楽器を作ることが出来るか問いかけをすると、カラーセロハンが膜になることに気が付いて、膜鳴楽器の太鼓を作ることにした。

探究活動の様子：

好きな色のカラーセロハンを選んで、グループごとに製作に取り組んだ。「震えているね」とセロハンや紙コップに触れながら話していた。子どもたちが好きなシール貼りも取り入れたことで、お気に入りの楽器作りに夢中になっていた。グループ内で完成した楽器を見せ合って、お互いに演奏する姿が見られた。

ふりかえり（保育士の気づき）：

震えを感じる事が出来るようになり、さらに場所での種類分けもしっかり理解することが出来ていた。その中でもイメージしやすい膜鳴楽器を作ることによって、子どもたちもスムーズに製作出来た。子どもたちの好きなシール貼りを取り入れて、子どもの意欲を引き出しながら探究活動を行うことで、集中して取り組むことが出来たのだと思う。



【4歳児実施分】

問いを考える：

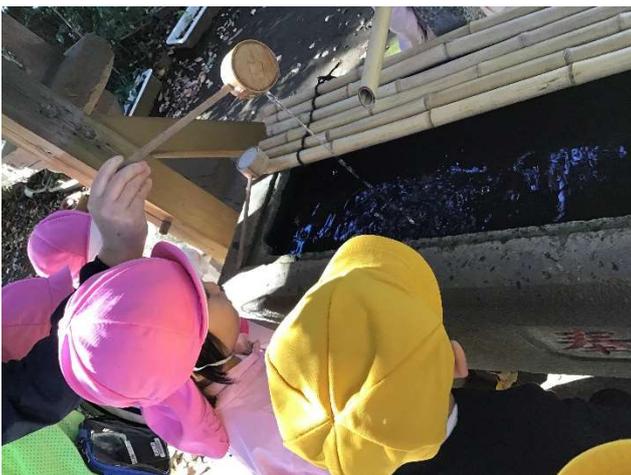
オノマトペについて知った後、「身の回りにはどんなオノマトペがあるかな？」という問いかけをきっかけに「外にも行きたい」という発言があった。いろいろな音を意識できるように、グループごとにオノマトペビンゴのイラストを持って、園周辺や近隣の神社へ散歩に行くことにした。

探究活動の様子：

普段の散歩と比較して、「どんな音がするかな？」「ビンゴに合ったイラストの音は聞こえるかな？」と耳を澄ませながら歩いている姿が見られた。近隣の神社では、手洗い場で水の音に気付いて「ちゃぽちゃぽだって」など気づいたことを言葉にしていた。また、落ち葉を踏んで葉っぱが乾いた音を発見したり、どんぐりを落として自分で音を作ったりして楽しんでいた。いろいろな音を見つけてビンゴにしていた。

ふりかえり（保育士の気づき）：

声掛けや取り組みを変えることで、普段の散歩にも違った取り組み方があると感じた。子どもたちがオノマトペを通して身近な音の楽しさを知っていく様子が見られて良かった。自分たちで音を作り、オノマトペ探しを続けていたので、肯定的な声掛けをしながら見守ったり必要に応じて援助したりしていく事で、連続的な取り組みになっていくと感じた。



【5歳児実施分】

問いを考える：

楽器が震えによって音が鳴ることを知ったので、保育園の楽器も使用して震えを体験した。いろいろな楽器に触れる中で、子どもたちの中から「なんだか曲が演奏できそう」という言葉が出て、演奏会をすることになった。

探究活動の様子：

アゴゴウツの音を聞いて「カエルみたいだね」という発言があり、子ども同士で‘かえるのうた’の曲を歌いながら楽器を鳴らしていた。その後、楽器の種類ごとに分かれて演奏会を行いたいという意見をもとに、グループに分かれて再度演奏会を行った。種類ごとにどんな音がしたのか聞いてみると、「膜鳴楽器はドンカッという」「いい音がしたのは体鳴楽器だった！」とそれぞれのグループの違いを言葉にして話していた。

ふりかえり（保育士の気づき）：

何の音に似ているのかを自分たちで話して、自然と‘かえるのうた’の合奏に決めていて、年上児ならではの話し合いによる解決を見ることが出来た。また、楽器の名称や種類などの知識が身についたり、いろいろな楽器を体験したりと、活動を通して楽器に親しむことも出来ていた。好きな楽器が出来るなど、楽器に対する思い入れも見られて良かった。



とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	東京都豊島区长崎 1-19-14
園名	アスク長崎一丁目保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

ボール

<テーマの設定理由>

日頃から室内でのボール遊びに積極的に参加しているが、近隣の公園では球技を行うことが出来ず、遊びの展開が限られている。プログラムを通して、子どもたちのボール遊びや球技への関心をさらに深めるため。

2. 活動スケジュール

11月から3月まで行い、月に1回体操の講師を招致し身体の動かし方について子どもたちの前で実演をしたり、探究心を書き立てるような助言をもらったりした。また、その時点での子どもたちの興味関心をもとに、保育者と体操講師と共に問いかけや内容を考え、子どもたちの反応や言葉によって次回の内容を柔軟に変えていけるようにする

11月：ボールとは何かを考える。実際にボールに触れて、どのような動きをするのか確かめることができるようにする。その後自作のボールを作成する。

12月：自作のボールを使ってボール転がしゲームを行う。上手く転がすにはどんな形がよいかを子どもと一緒に考えて、改良に繋げる。

1月：難易度を上げたボール転がしゲームを行う。ボールの形だけではなく、転がし方にも着目できるように声掛けをしながらゲームを行う。ボールの改良も再度行う。

2月：ボール投げゲームを行う。投げ方も工夫しながら狙った通りにコントロールするにはどうしたらよいかを考える。

3月：キャッチボールを行う。投げる動作に加えて、どうしたらキャッチが出来るかを実演の観察や実践を通して考えられるようにする。他のボール遊びにも親しむため、玉入れも行う。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・ボール…実際に触れたり投げたりして、性質をつかむ。
- ・マット・マーカー…ボールを投げる際の目印にする。
- ・折り紙・花紙・ティッシュ・テープ…ボールを作る。
- ・セロハンテープ…作ったボールが開かないように固定する。
- ・玉入れ籠…探究活動での玉入れに用いる。

4. 探究活動の実践

【3歳児実施分】

問いを考える：

手作りボールを使って転がす・投げる動作が身に付いてきたので、次はキャッチの動作に挑戦することになった。「キャッチボール分かる」という発言があったので、みんなで取り組んでみることにした。

探究活動の様子：

2人ずつのグループになってキャッチボールを行う。投げる動作には慣れていたので楽しそうに投げているが、その中でただ単に投げるだけではキャッチが出来ない事に気が付いていた。どうしたらいいのか自分なりに考えて「近づいてみよう」「コロコロ優しくしてみよう」と試行錯誤しながら取り組んでいた。その後のすくわくの回で、体操講師のキャッチの動作をよく観察したりポイントを聞いたりしてから、再度キャッチボールを行った。学んだことを意識しながら取り組んでおり、少しずつキャッチできるようになっていた。「楽しいね」「次は〇〇ちゃんとやりたい」など話していた。

ふりかえり（保育士の気づき）：

「投げるだけじゃダメだった」「じゃあこうしてみよう」といろいろな方法を考えながら試していく姿が見られた。ボールの形や大きさ以外の、投げ方や遊び方に着目している子が多い印象だった。大きなボールはキャッチしやすい様子で、しっかり胸に抱えるような形でキャッチすることが出来ていた。ボールが自分に向かって飛んでくることを怖がる子もいたが、活動に楽しそうに取り込むことが出来ていた。



【4歳児実施分】

問いを考える：

ボールとはどんなものかを話し合った。実際にボールに触れて動きや特性を感じた後に、自分専用のボールを作ることになった。

探究活動の様子：

大きな紙をちぎって丸めたり折り紙を丸めて作ったりして自作ボールを作成した。その後作ったボールを実際に投げてみて、グループごとに友だちのボールとの飛び方の違いを感じ、小さいボールが遠くまで飛ぶことに気が付いていた。また、自作のボールとゴムボールを見比べながら改良を行う子もいた。「本物はデコボコしてないね」「僕のはしわしわだ」とよく観察して違いに注目していた。セロハンテープを使って表面がつるつるになるように貼っていた。‘投げて改良’を納得がいくまで繰り返していた。

ふりかえり（保育士の気づき）：

実際にボールを投げたり転がしたりする中で、自作のボールの動きに夢中になる姿が見られた。どうしたら動きが改善するのかはつきりわかっていなかったが、ゴムボールや家のボールとの違いを考える様子も見られ、自分の知識を活かして取り組んでいる姿に驚かされた。



【5歳児実施分】

問いを考える：

子どもの知っているボール遊びを聞いていくなかで、玉入れの単語が出てきた。ボールを投げる動作を楽しんでおり、「小学校でもするよね？」の発言から就学への意欲にも繋がっていると感じたため、玉入れに取り組むことにした。

探究活動の様子：

安全を考慮して、従来の玉入れのやり方ではなく、2チームに分かれて離れたところからカゴに向かって球を投げ入れ、入った玉の数で勝敗を決定するルールで行った。1回目は両チームともに30個ほど入ったが、「全然入らなかった」の声が多く上がった。そのため、2回目を開始する前に作戦会議をした。「上から虹みたいにしたらいいよ」とグループ内でも得意な子どもがアドバイスをしていた。2回目ではアドバイスを意識しながら取り組んでおり、取り組み中も「たくさん同時に投げてみよう」「足をチョキにしよう」と工夫しながら取り組む姿があった。結果、両チームとも数が増えて40個近く入れることが出来ていた。

ふりかえり（保育士の気づき）：

子ども同士で話し合えるように作戦会議の時間を設けたことで、「こうしたらいいよ」と共有しながら「次はこうしてみよう」と改善点を考えていた。投げ方に重点を置く子が多かったが、「この球ちょうどいい大きさだね」と大きさに注目する子もいて、保育者が発言を繰り返すことで、他児とも共有していた。勝敗が付く遊びにしたことで、意欲を引き出しながら楽しむことができた。

